

地域子育て支援センター運営方法見直しに係る サウンディング型市場調査 個別対話結果概要

1. 実施期間

令和3年8月17日～10月25日

2. 参加法人数

14法人

3. いただいたご意見・ご提案の概要

運営方法について

需要について

- 支援センター単独の受託も検討可能。市内4施設の一斉受託も検討可能。
- 4ヶ所の中で、白山や井野なないろは併設型なので民間としては手を上げづらい。それに比べて藤代の子育て支援センターは保育所から独立しているので民間でも運営しやすいと思う。
- 民間委託する需要はあるかとのことだが、あると思う。他の市町村は基本的に民間が運営し、足りないところを公立で補っているところが多い。
- 藤代支援センターを見たが、広くて子育て支援センターとしての使い勝手は良いと思った。
- 支援センターをやるとなると責任を持って継続させると収支、採算性、職員配置に伴う職員のモチベーションを考えるため、簡単にやりますとはいえない。

委託方法・期間・金額について

- 契約は5年契約出来るのならば、指定管理でも業務委託でも良い。一年契約の場合、職員の雇用が不安定になることが懸念材料。
- 支援センターを業務委託にする理由として施設の管理や修繕の負担などがあるが、施設の規模が大きくないので、事業者の独自性を生かして指定管理が良いのではないかと。今回のケースの場合、指定管理と業務委託で費用はあまり変わらないのではないかと。

- 職員の安定した雇用を考えると1年更新は職員にとって厳しいので、指定管理で5カ年契約が望ましい。
- 指定管理の方が、事業を多く導入しやすい。契約期間の違いもある。地域の注目度としても指定管理の方が注目度は高いものとなる。子育て支援拠点についてはコミュニティを作ることを中心としているため形成されたコミュニティがリピートすることで利用人数も増えている。
- 一括もしくは2施設での運営であればうれしい。
- 業務委託にくらべて指定管理は費用が2倍ほどかかってくると思われる。業務委託の場合、消耗品や光熱費等を自治体持ちだが、指定管理となるとそこも込みとなってくる。
- 他市は業務委託で様子を見てから運営が難しそうであれば直営に戻す考えもあった。指定管理にする上で議会の承認を得るのに時間がかかる。
- 支援センターを1つ1つに分けることは、経費削減にはならないのではと思う。

新たな提案・展望について

サービスの提案

- 新サービスについては、子ども図書館を新設したり、藤代支援の場合向かいの会議室をつかって個別の育児、保健、食育相談が出来ると利便性が高まる。また、短時間預かる一時保育なども良いのではないかと。ごく短時間でも気軽に預けられる所があると良い。今の一時保育は待機児童の受け皿になっておりごく短時間の利用がしづらい状況になっていると感じる。保育所併設型ではなく、支援センター併用であると短時間の一時保育も使いやすいのではないかと？
- 送迎事業を委託して行うことで、空いた時間・職員で支援センターを昼間運営することが出来る。利用者の利便性を考えると良い。
- なないろは支援センターの拠点として広域的な対応ができるといい。発達支援などの対応等。一律同じサービスであることはない。モデルとしてなないろ・藤代で行うと良いのでは。
- SNS や Twitter 等を利用した子育て支援拠点の認知向上。他市町村では Twitter を通じて地域とのつながりができている。
- 支援センターの土曜日開所は可能。一週間の5日間で土、日のいずれかを

いれることは可能。

- 子育て支援事業については、施設との連携が大切。ファミサポとの連携など
もできる。また、ホームスタート事業と連携しても面白いと思う。センター
の機能の中に付加機能をくっつけて実施することで採算がとれるのではな
いか。
- 絵本や紙芝居が少なく、長く親子で遊ぶには不足があるのかなと感じた。子
育て支援センターはイベント重視なのかなとは思ったが、コロナ禍でもあ
り母子で静かに過ごすために、絵本ももう少しあった方が良い。
- 子育て支援センターと保育所の連携を取ることが大切。一時預かりをしな
がら保育所につなぐ流れも必要。駅前などで集中的に預かる仕組みや、そこ
にバスステーションを組み合わせると非常に効率が良い。
- ウィズコロナ時代の子育て支援センターの対応として、人数制限予約制
などから利用したくてもできない場合もあるので、オンラインによる対応
も考えるべきである。
- 支援センターを増やさずに親子広場を設ける市もある。児童クラブなどと
併用して運営している。
- 年代によってギャップもあったり、0歳児でも月齢で悩みが違ったりするの
で支援センターの入り口をどれだけ広げられるかを考えている。

市への提案

- 地域に支援センターを求めるならば、今ある支援センターは保育室など他
の部屋としてつかい、民間事業者に、委託ではなく保育所併設型を補助金で
運営してもらう方が良いと思う。他の市町村はそういったタイプが多い。
公立のみの取手市が珍しいケースであると思う。
- 取手市として、地域毎に併設型を募集するのはどうだろうか？ 民間の支
援センター事業は赤字になる事業ではないから、多くの民間がこの補助事
業を実施している。本来赤字になる事業を公立が担っていき、民間で運営可
能な事業は民間でもいいのではないだろうか？
- 多くの支援センターを各保育所が運営している市では、お母さんはカレン
ダーで行きたいイベントを選んで行くなどできるが、市とのつながりが少
なく、相談業務を支援センター単独で解決するなどの問題もある。市とのネ
ットワークをつくる必要がある。

- 例えば、中央保育所の建て替えとともに藤代支援センターを中央保育所に移動し、今の藤代支援センターを別事業（発達支援事務所や病児病後児保育室）にするなども考えられる。
- 運営方法の検討をしているということで今が転換期にもなっているように感じており、今までに無いような発想の支援センターの運営をしてみてもいいのではないかと。注目度も増していくと行くと思う。
- 市で1ヵ所は支援センターを運営して幅広い人に利用してもらうのが大事。民間は色が強い分ためらってしまう保護者もいるが、保護者が幅広く選べると言うことは公立で運営していることは強みになっている。
- 地域子育て支援センターであるため、その地域の法人が行った方がいいと思う。地域の事情に詳しい法人が運営しないと、ただの遊びに来るだけの運営になってしまう恐れがある。地域の子育てに関する相談ができるのも支援センターの要素の1つであるため。

市への要望

- スケジュールに余裕があると参加しやすい。修繕費についても記載があったり、職員の駐車場の有無についても記載があると参加しやすい。
- 支援センターについても、しっかり施設整備をして欲しい。エアコンや水回りの修繕の負担や上限金額など明示して欲しい。
- 保育所とセンターと併せて受託した場合、相互のやりとりをしっかりとしたい。
- 事業者としては子育て支援事業で利益を出すことは難しいので、保育園の運営と一緒に出してもらうとやりやすい。
- 支援センターは縛りが多いと厳しい。運営に対して独自性を作れる方がいい。
- 短い計画期間よりも3年、5年ほどのまとまった契約期間は欲しい。
- 藤代の子育て支援センターを受託するのであれば、中央保育所と一体で管理運営することが望ましい。
- 同一敷地内の戸頭公民館の駐車場（合計25台分）について、公民館の利用者と兼用で使うとなると台数的に足りない。戸頭地域子育て支援センター専用の駐車場があるといい。
- 地域子育て支援センターの運営において、市からの運営支援に係る補助制度があると有難い。

職員管理について

資格について

- 資格については保育士、子育て支援員を配置。転籍雇用を第一として社内異動や求人活動を行う。保育士が多くバックアップ体制も整っている。
- 支援センターはもっと妊婦さん呼び込みたい。育児中のお母さんのメンタルも心配。お母さんのスキルを生かした講座を開くなど、お母さんの支援も大事。隠れた資格を地域に行かせると良い。
- 相談に関しては、公認心理士がいるので、専門的な悩みに対しても対応できるようにしている。
- 看護師の配置が必須となると収入面等を考えると雇用するのが難しい。園で募集をかけているが、なかなか集まらないのが現状である。

人員について

- 支援センターを4ヶ所に分けると、横のつながりや連携がとれるのか疑問がある。職員の確保についても、保育園との連携があった方が、職員の確保についても流動的な運営が出来るのでは。費用対効果を考えると、事業費として4つまとめることで圧縮できることがある。
- 学童に比べて保育所や支援センターは慢性的に人員不足となりやすい。人の管理についても台帳管理で行っており、突発的な休みが発生しても対応できるようにしている。
- 支援センターの運営方法はいろいろあるが、支援センターと保育園の連続性があったほうがやりやすい。支援センターは人件費がほとんどなので、そこをどう工夫するか。
- 支援センターにおいては資格にこだわらず人にこだわった方が継続性はあると思う。
- 支援センターの様々な企画はあくまで入り口のハードルを下げるものであり、あくまで子育ての悩みの解消を目的とする人員配置に気を遣っている。
- 転籍雇用の場合、現状との給与体系と法人での給与体系に格差があってはならないと思うので会計年度職員（有期雇用）の任用に対する情報が欲しい。